



# 「子どもの本棚」

子どもたちに勧めたい本をご紹介します。  
本選びの参考になさってください。



## 『飛ぶ教室』 エーリヒ・ケストナー・作 高橋健二・訳/岩波書店

ドイツの作家エーリヒ・ケストナーが『飛ぶ教室』を書いたのは、1933年。当時、ヒトラーが政権を握ったため、自由・平和主義者のケストナーが書いた小説や詩集は、公衆の面前で焼かれ、著作の発表を禁じられたそうです。しかし、子ども向けの作品は禁止されることなく、子どもたちに読みつづけられました。

『飛ぶ教室』のまえがきにはこうあります。「子どもの涙はけっしておとなの涙より小さいものではなく、おとなの涙より重いことだって、めずらしくありません。」

『飛ぶ教室』は、あるドイツの寄宿学校を舞台とする5人の少年の物語です。成績はよいけれど殴り合いには必ず参加するマルチン、両親に捨てられ、船長に育てられている空想力豊かなヨーニー、みんなから臆病者と思われ自身もそれを悩みとするウリー、ウリーの親友でボクシング世界チャンピオンを目指す勉強が苦手なマチアス、本が好きで少し理屈っぽいセバスチアン。そして5人の少年たちが心から信頼する正義先生と、廃車となった禁煙車両に住んでいる禁煙先生。個性豊かな登場人物たちが、クリスマスが間近に迫る寄宿学校で様々な経験をし、成長していきます。

この物語には、子どもたちが人生の課題から目をそらさず、自分で考え、悩み、仲間とともに成長していく様子、また、尊敬し信頼し愛することのできる大人を自分の力で発見し、将来を夢見る子どもたちと、それを心から応援してくれる大人の心のつながりが描かれています。

ケストナーは言います。「この機会に私はみなさんに心の底から願います。みなさんの子どものころをけっして忘れないように！」と。

私自身、毎年この季節になると、読みかえしたくなる物語です。クリスマス前のひとときを、少年たちと笑い、泣き、楽しんでみてください。

大人にもお勧めします。友情、正義、勇気、信頼…ご自分の子ども時代を思い出してみてください。子どものころをけっして忘れなかつたらうケストナーとともに。



(司書 畑山里美)

## Peek a Boo

～あかちゃんとおかあさんの絵本の時間～

12月21日(火) 10:30～11:00

乳幼児と保護者を対象に、1F絵本コーナーで手遊びや読みきかせをしています。どなたでもお気軽においでください。

## 雑誌開放のお知らせ

12月11日(土) 9:30～

保存年限を過ぎた雑誌を差し上げます。数に限りがありますので、おひとり5冊までとさせていただきます。

なお、持ち帰り後の返却や、事前の予約は受け付けておりませんので、ご了承ください。

|      |      |                         |
|------|------|-------------------------|
| 開館時間 | 本館   | 9:30～18:00              |
|      | 枝川分室 |                         |
| 休館日  | 本館   | 月・祝日(23日)<br>館内整理日(26日) |
|      | 枝川分室 | 月・水・金・日                 |
| 電話番号 | 本館   | ☎850-4360               |
|      | 枝川分室 | ☎850-4350               |

<http://inolib.town.ino.kochi.jp>

※平成16年12月26日～平成17年1月4日 休館